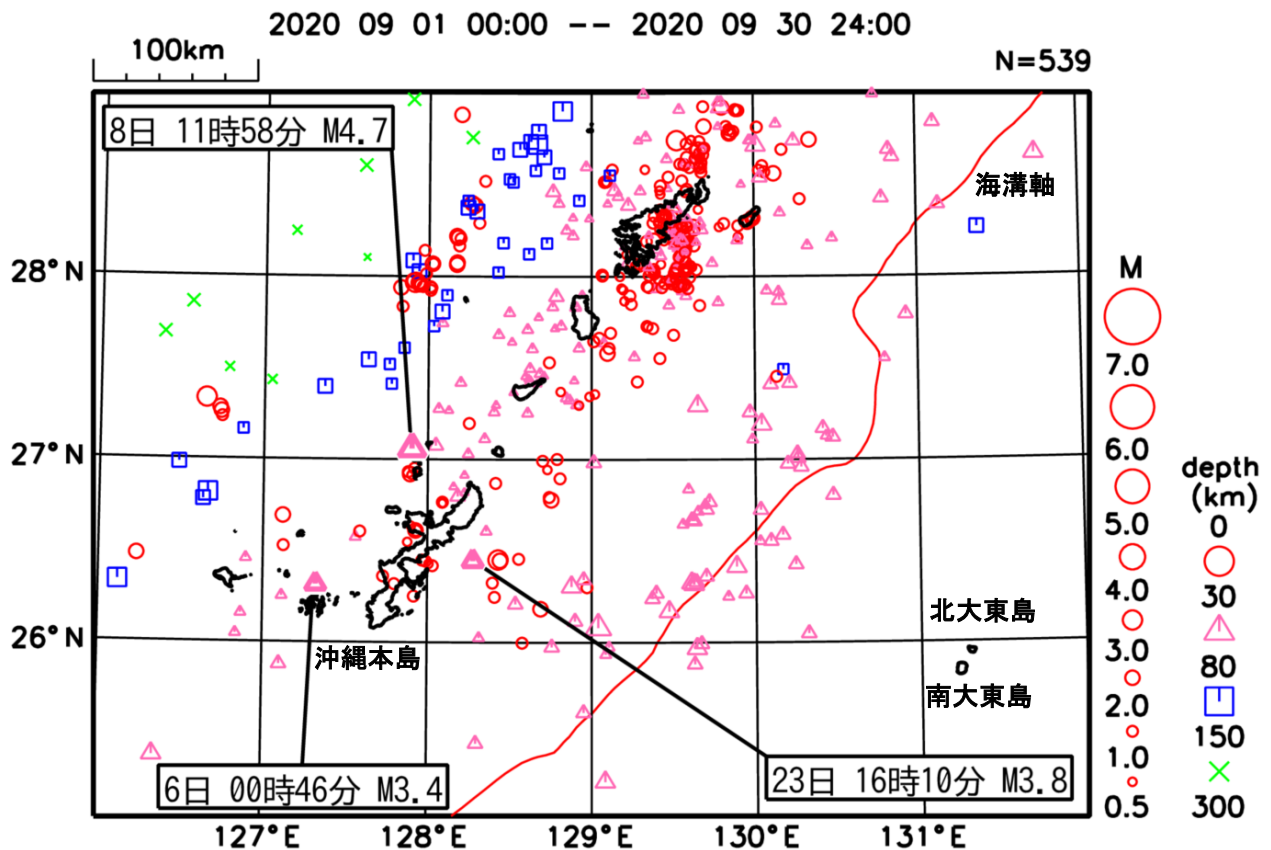


大東島地方の地震活動

2020年9月

南大東島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

[概況]

今期間に、大東島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（8月は1回）。
なお、沖縄本島地方では3回観測しました（8月は2回）。

また、大東島地方周辺（上図の範囲）で観測した地震は539回（8月は691回）で、このうちM4.0以上の地震は2回（8月は4回）でした。

※沖縄地方（沖縄県）の地震については、沖縄気象台作成の「沖縄地方の地震活動」をご覧ください。

URL：<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/jishin/month.html>

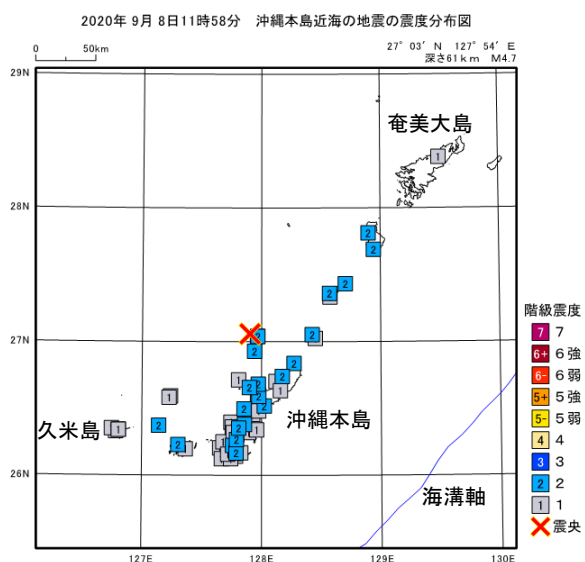
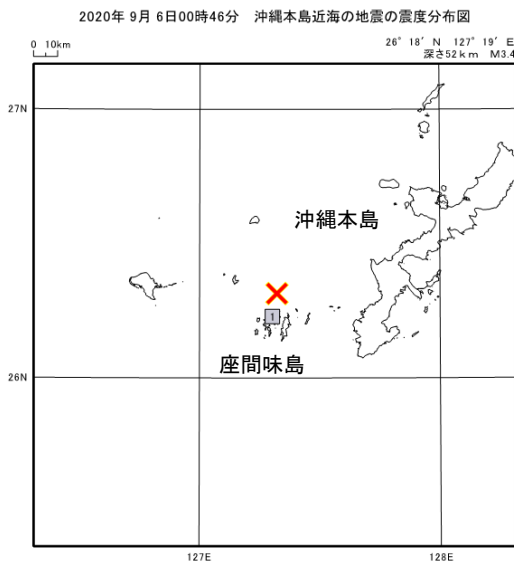
大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表（期間：2020年9月1日～30日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2020年09月06日00時46分 沖縄県 震度 1：座間味村座間味＊	沖縄本島近海	26° 18.8' N	127° 19.3' E	52km	M3.4
2020年09月08日11時58分 沖縄県 震度 2：名護市豊原, 名護市港＊, 国頭村奥, 国頭村辺土名＊, 今帰仁村仲宗根＊ 本部町役場＊, 恩納村恩納＊, 伊平屋村我喜屋, 伊平屋村役場＊ 伊是名村仲田＊, 沖縄市美里＊, 中城村当間＊, 西原町与那城＊ 座間味村座間味＊, 渡名喜村渡名喜＊, うるま市みどり町＊ 南城市佐敷字佐敷＊ 震度 1：名護市宮里, 大宜味村大兼久＊, 東村平良＊, 宜野座村宜野座＊, 金武町金武＊ 伊江村東江前＊, 粟国村浜, 粟国村役場＊, 那覇市樋川, 那覇空港, 那覇市港町＊ 宜野湾市野嵩＊, 浦添市安波茶＊, 糸満市潮崎町＊, 読谷村座喜味 嘉手納町嘉手納＊, 北谷町桑江＊, 北中城村喜舎場＊, 豊見城市宜保＊ 与那原町上与那原＊, 南風原町兼城＊, 渡嘉敷村渡嘉敷＊ うるま市与那城平安座＊, うるま市勝連平安名＊, 八重瀬町具志頭＊ 八重瀬町東風平＊, 南城市玉城字玉城, 南城市知念久手堅＊ 南城市大里仲間＊, 南城市佐敷字新里＊, 久米島町山城, 久米島町謝名堂 久米島町仲泊＊, 久米島町比嘉＊ 鹿児島県 震度 2：天城町平土野＊, 伊仙町伊仙＊, 和泊町国頭, 知名町瀬利覚, 与論町茶花＊ 震度 1：奄美市名瀬港町, 知名町知名＊, 与論町麦屋	沖縄本島近海	27° 03.5' N	127° 54.1' E	61km	M4.7
2020年09月23日16時10分 沖縄県 震度 1：今帰仁村仲宗根＊, うるま市みどり町＊	沖縄本島近海	26° 26.7' N	128° 16.6' E	37km	M3.8

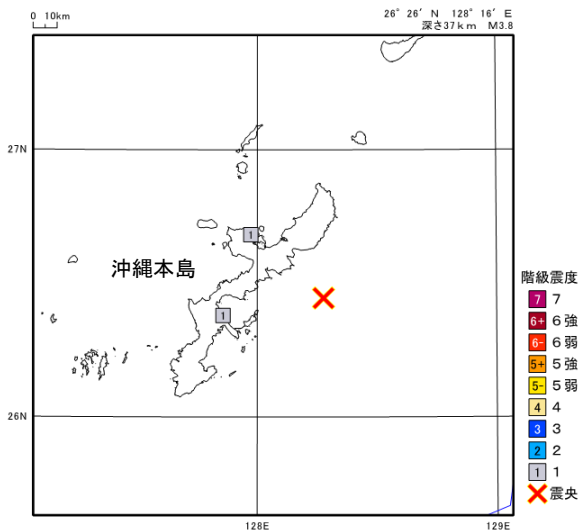
*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※大東島地方及び沖縄本島地方以外に震度が観測された場合は、その地震も記載します。

大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図



2020年9月23日16時10分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



※資料中のデータについて

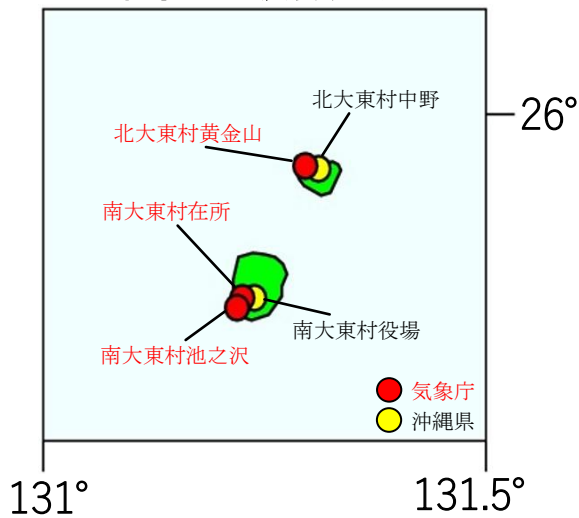
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



気象庁 南大東島地方気象台
Japan Meteorological Agency Minamidaitoujima Local Meteorological Office

本件に関するお問い合わせ先

電話：09802-2-2006

ホームページ：<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

津波防災の日

平成23年（2011年）の東日本大震災で、巨大な津波によって多くの人命が失われました。これを教訓として、津波から国民の生命を守ることを目的に、毎年11月5日が「津波防災の日」に定められました。

11月5日に「津波防災の日」が定められた背景は、1854年（嘉永7年/安政元年）の安政南海地震があります。この地震はマグニチュード8.4の巨大地震で、紀州藩広村（現在の和歌山県広川町）に津波が襲来しました。この時、庄屋の濱口梧陵（当時儀兵衛）が村の「稲むら」に火をつけて、村人を安全な場所に誘導し命を救ったという逸話があります。この逸話は、小説家のラフカディオ・ハーン（日本国籍小泉八雲）が史実をもとに小説「A Living God」を書きました。その後、小学生向けに日本語翻訳された「稲むらの火」は昭和12年から10年間小学国語読本として掲載され、地震後の津波への警戒と早期避難の重要性、人命救助のための犠牲的精神の発揮を説き、防災教材として高く評価されています。

今回ご紹介した「稲むらの火」は、まんが日本昔ばなしや紙芝居などで、子供により興味を持ってもらえるような取り組みも行われています。その他、「津波防災の日」に関連して、下に示したような内閣府の津波防災特設サイトや、気象庁の緊急地震速報の訓練があります。この「津波防災の日」をきっかけに津波対策についてぜひ考えてみてはいかがでしょうか。



内閣府

あらかじめ確認しよう

- ・津波のリスクの高い地域
- ・津波の到達時間
- ・指定緊急避難場所など安全な場所
- ・避難ルート
- ・非常用持ち出し品 など



内閣府 津波防災特設サイト より

●内閣府の津波防災特設サイトでは、津波防災の取組やイベントに関して様々な情報が掲載されています。サイト内の「使って、遊んで、学ぶ」のコーナーでは、子供の方が興味を持てるようなコンテンツもありますので、活用して津波防災について考えてみてはいかがでしょうか。詳細は下記のURLをご確認ください。

内閣府 津波防災特設サイト：<http://tsunamibousai.jp/>

●気象庁では、今回紹介した「津波防災の日」である11月5日に緊急地震速報の全国的な訓練が行われます。実際の地震が起きた際に適切な防災対応ができるように、この機会に身を守る体験をしてみましょう。訓練の詳細は下記のURLをご確認ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/2020/02/kunren.html>



地震・津波に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<https://www.ima-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

